

2004年10月05日に福井県池田町付近で発生した地震（M4.8、JMA）の特徴について

○岡本拓夫・平野憲雄・竹内文朗・西上欽也

1. はじめに

福井県及び周辺では、福井地震（1948, M7.1）に代表されるように内陸型の被害地震が発生している。北陸地震観測所では、1976年より微小地震観測網によって活動の推移を把握してきた。福井地震断層に沿う余震活動など、活断層に沿って認められる微小地震活動が特徴的である。2000年以降、石川県西方沖地震（2000, M6.2）等一時活動的になったが、2003年中旬より福井県嶺北地域において地震活動の低下が認められた（岡本他, 2004）。そのような状況で、2004年10月05日に池田町付近においてM4.8の地震（以下池田町の地震）が発生した。本講演では、池田町の地震の特徴を詳細に報告する。

2. 福井県及び周辺の地震活動

福井県及び周辺では、明瞭な活断層に沿う微小地震活動が特徴的である（例えば竹内他, 1985）。特に福井地震断層に沿う活動は、余震活動であると考えられている。また、柳ヶ瀬断層北部のように地震活動がなくなる地域があることも特徴的である。

3. 池田町の地震（M4.8）付近の地震活動

北陸観測所のデータを用いて、池田町周辺の地震活動の様子を調べた（1976年5月～2004年3月）。長期に渡る活動の様子より、池田町の地震が発生した地域にも地震活動が認められる事が分かった。しかし、2001年1月～2004年3月の期間に限定すると、地震活動の空白域が認められる。Fig.1に2001年～2004年の震源分布及び本震と余震の再決定の結果（赤色）を示す。福井地震断層に沿う活動分布が温見断層に延びる前、やや東側の空白部分に発生したことが分かる。講演では、可能であれば気象庁のデータも加えて、この空白域の特徴を検討する。

4. 検討

講演では、76年よりのSeismicity, メカニズム,

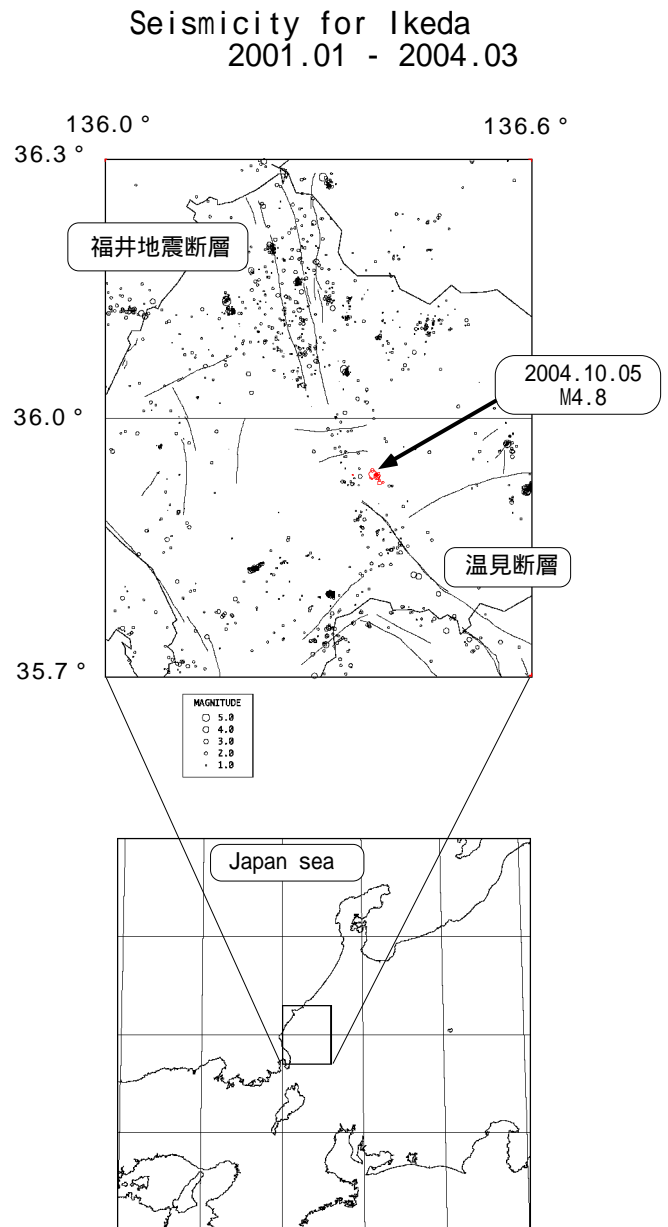


Fig.1

積算曲線等を合わせて示し、特徴を明らかにしていく予定である。（再決定は MJHD, 作図は HyperDPRI を用いた）